

# AC・Net ニュース

NO. 157  
2008年  
6月18日

*Human Network for Researchers toward Advanced Telecommunications*

梅雨の候、皆様には益々ご健勝でご活躍のこととお喜び申し上げます。

先日の平成20年度総会は、ご参加頂いた皆様のご賛同のもと、滞りなく終了することができました。また、当情報通信研究機構宮原秀夫理事長の特別講演にも多数のご参加をいただき、盛況のうちに閉会致しまして、ありがとうございました。

次回7月の例会は、「生命進化と人の歴史－<進化>と<歴史>の接点」をテーマに、下記の通り予定しております。

皆様ふるってご参加いただけますよう、ご案内申し上げます。

## ☆7月の例会

日 時： 2007年7月17日(木)

会 場： 大阪新阪急ホテル 2F

※通常よりも1時間開始時刻が遅くなっていますので、御注意願います。

講演会： 16:00～18:30 「花の間」

「人と情報と歴史の相関－卑弥呼からの問いかけ」

奈良女子大学  
文学部 教授  
小路田 泰直 氏

「寿命という生物時間の進化」

奈良女子大学  
名誉教授  
高木 由臣 氏

懇親会： 18:30～20:00 「花の間」

## 第174回 AC・Net 例会（7月17日）

【講 師】 小路田 泰直 氏  
奈良女子大学 文学部 教授

【演 題】 「人と情報と歴史の相関—卑弥呼からの問いかけ」

### 【概 要】

情報産業の発達は、情報技術の発達と、情報コンテンツの充実の両方からもたらされる。新世代ディスクの開発競争の勝者に結局ブルーレイがなったのも、コンテンツ供給側としてのアメリカ映画産業の影響が大きい。任天堂がウイーでソニー・マイクロソフトに対する巻き返しに成功したのも、コンテンツの充実によるところが大きい。そして人の社会を飛び交う情報コンテンツの多くが、実は歴史に供給源をもっているのである。「インディー・ジョーンズ」がそれなりにヒットする理由を考えてみてもわかる。ではそれはなぜか。意外と深い人の本質に由来するのではないだろうか。それを考えてみるというのが本報告の課題である。

3世紀、卑弥呼のもとにやってきた魏の使いは、北九州から出雲を経て丹後半島の付け根あたりで上陸し、おおむね由良川と加古川に沿って瀬戸内海に出、そこから大和に入った。『魏志倭人伝』に書かれたとおりの行程で邪馬台国にやってきたと考えると、それしか考えられない。そうすると彼らは、日本列島を唯一山越えなしで南北に縦断できるルートが、由良川＝加古川沿いに開けていたことをあらかじめ知っていたことになる。知っていなければ最初から瀬戸内海を東進するはずからである。何という緻密な情報処理能力だろう。

その古代人の高度な情報処理能力はどこから来るのか。それを考えることを通じて、上記の課題に私なりの答えを用意してみたい。

### 【略 歴】

- 1984年 京都大学大学院文学研究科（国史学）単位取得退学
- 1986年 橘女子大学講師
- 1989年 奈良女子大学文学部助教授
- 1998年 奈良女子大学文学部教授（現在に至る）

【講 師】 高木 由臣 氏

奈良女子大学 名誉教授

【演 題】 「寿命という生物時間の進化」

### 【概 要】

36億年の進化史の中で、最初の約半分は不死の細胞である原核生物のみが存在した世界であり、老化や寿命という生物現象は約20億年前に登場した真核生物が獲得した進化産物である。通説では、不死性の喪失は有性生殖の獲得とトレードオフの関係にあるとされるが、トレードオフの成立過程や、有性生殖のもたらすものが何なのか（ゲノムの多様化とは言えない）など、不明な点が多い。演者はゾウリムシ研究者の視点から、寿命という生物現象の多様性、変異性、法則性等を概観した上で、寿命の歴史性について考察する。

### 【略 歴】

- 1941年 徳島市に生まれる
- 1965年 静岡大学卒業
- 1967年 京都大学大学院理学研究科修士課程修了
- 1969年 京都大学大学院理学研究科博士課程中退
- 1969年 京都府立医科大学助手
- 1974年 奈良女子大学講師
- 1975年 奈良女子大学助教授
- 1994年 奈良女子大学教授
- 2005年 奈良女子大学定年退職 名誉教授へ（現在に至る）

### 【著 書】

- 『生物の寿命と細胞の寿命』 （平凡社 1993）
- 『ゾウリムシの遺伝学（第7章）』（樋渡宏一編、東北大学出版会 1999）
- 『Cell Immortalization (pp.81-101)』  
(Ed. by A. Macieira-Coelho, Springer-Verlag, 2000) 他。



## \* H20年度総会(5月15日)

風薫る中、新阪急ホテルにて平成20年度情報通信技術研究交流会総会が行われました。

吉田会長の議事進行により進められ、平成19年度事業報告及び、決算報告が承認されました。続いて、平成20年度事業計画案、予算案の審議が行われ、共に承認されました。

ここに滞りなく総会が終了しましたことをご報告申し上げます。



## \* AC・Net 5月特別講演会

演題：「高度情報通信社会を目指して

*Toward The Advanced Information and Communications Society」*

講師：独立行政法人 情報通信研究機構

理事長 宮原 秀夫 氏

～特別講演会のアンケートから～



- 生物に学ぶというテーマは、非常に興味深い発想で面白いと感じました。（複数意見有）
- 通信と自然界の融合については、大変興味深かったです。（複数意見有）
- 知らない歴史を、また Network の本質のお話で、非常に面白かったです。
- 新世代ネットワークの前提となる考え方を知ることができ（特に TCP/IP が万能ではない点）、参考になった。
- TCP/IP ネットワークの VOIP 利用や QOS 制御については、以前からその意義に疑問を持っていましたが、本日のご講演で再認識しました。ただ、NTT をはじめキャリア各社の事業の方向性は、IP ネットワークに集約化を進める事のみで、他のネットワークの姿は見えてきません。ネットワークプロトコルを含め、新しい技術の台頭を待ち望んでいます。

### 【事務局から】

○講演会の御案内は、メール配信及び WWW-KARC のホームページ ([www-karc.nict.go.jp/ACnet](http://www-karc.nict.go.jp/ACnet))で行っています。

○会員名簿情報に変更がある場合は、その都度事務局までお知らせください。



〒 651-2492 神戸市西区岩岡町岩岡588-2  
独立行政法人 情報通信研究機構 神戸研究所  
未来 ICT 研究センター内

TEL 078-969-2132 FAX 078-969-2119  
E-mail [acnet@po.nict.go.jp](mailto:acnet@po.nict.go.jp)